反応化学

1

異なる分子間で起きる二次反応

(反応速度 v, 速度定数 k)

A + B ⟶ C

(反応物) (生成物)

【考え方】

・A と B が出会った後に反応する

・A と B が出会う確率

→ [A] × [B] に比例

2

$$-\frac{d[A]}{dt} = k[A][B]$$

x反応したとすると、反応の量論関係から、

$$\frac{d[A]}{dt} = -k([A]_0 - x)([B]_0 - x)$$

$[A] = [A]_0 - x$ なので、

$\frac{d[A]}{dt} = -\frac{dx}{dt}$ となり、速度式は次のようになる。

$$\frac{dx}{dt} = k([A]_0 - x)([B]_0 - x)$$

3

t=0のとき、x=0であるので、必要な積分は、

$$\int_0^x \frac{dx}{([A]_0 - x)([B]_0 - x)} = k\int_0^t dt$$

である。

4

部分分数法

$$\frac{1}{(a-x)(b-x)} = \frac{1}{b-a}\left(\frac{1}{a-x} - \frac{1}{b-x}\right)$$

$$\frac{1}{([A]_0-x)([B]_0-x)} = \frac{1}{[B]_0-[A]_0}\left(\frac{1}{[A]_0-x} - \frac{1}{[B]_0-x}\right)$$

5

$$\int_0^x \frac{dx}{([A]_0-x)([B]_0 - x)} = \frac{1}{[B]_0-[A]_0}\left\{\int_0^x \frac{1}{[A]_0-x}dx - \int_0^x \frac{1}{[B]_0-1}dx\right\}$$

$$= \frac{1}{[B]_0 - [A]_0}\left\{ln\frac{[A]_0}{[A]_0 - x} - ln\frac{[B]_0}{[B]_0 - x}\right\}$$

1/(a-x)の積分は-ln(a-x)

6

二つの対数は次のようにまとめられる。

$$ln\frac{[A]_0}{[A]_0 - x} - ln\frac{[B]_0}{[B]_0 - x} = ln\frac{[A]_0}{[A]} - ln\frac{[B]_0}{[B]}$$

$$= ln\frac{1}{[A]/[A]_0} - ln\frac{1}{[B]/[B]_0}$$

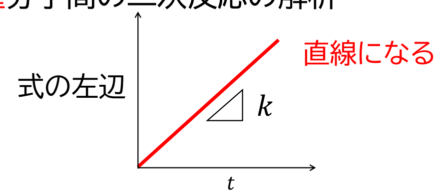
$$= ln\frac{[B]/[B]_0}{[A]/[A]_0}$$

$$\boxed{\frac{1}{[B]_0 - [A]_0} ln\frac{[B]/[B]_0}{[A]/[A]_0} = kt}$$

7

$$\frac{1}{[B]_0 - [A]_0} ln\frac{[B]/[B]_0}{[A]/[A]_0} = kt$$

異種分子間の二次反応の解析



8

ある溶液で起こったA+B→Pの二次反応の速度定数を求めよ。反応物の初濃度は、$[A]_0$=0.075 mol L^{-1}、$[B]_0$=0.050 mol L^{-1}であり、1h後、Bの濃度は0.020 mol L^{-1}へ減少したとする。

9

異なる分子間の二次反応を簡単にする

A + B ⟶ C
(反応物)　(生成物)

(方法①)

異種分子の初濃度を等しくする

$[A]_0 = [B]_0$
・A,Bは1分子ずつ反応
・〃 の濃度は常に等しい

10

同種分子の反応 (A + A →)とみなせる

$$-\frac{d[A]}{dt} = k[A]^2$$

$$[A] = \frac{1}{kt + (1/[A]_0)}$$

11

(方法②)　分離法

片方の反応物を 大過剰 にする

→ 擬似的に一次反応として扱える

(例)　$[A]_0 \lll [B]_0$

Bが大過剰に存在　(例: Bが溶媒)

→ 反応で使われる B は微量

= [B] はほぼ変化しない

近似的に　$[B] = [B]_0$　……①

12

$$\frac{d\,[A]}{dt} = -\,k\,[A][B]$$
$$= -\,k\,[A]\,[B]_0 \quad (①より)$$

$k' = k\,[B]_0$ ……② とおくと,

$$\underline{\frac{d\,[A]}{dt} = -\,k'[A]}$$ **(擬一次速度式)**

k'がわかる

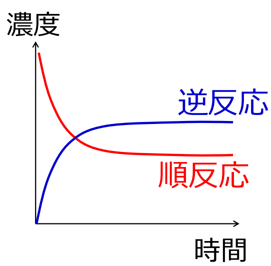
→ ②から k を求められる

13

平衡に向かう一次反応

14

可逆反応 ・右向きの反応 (順反応)
・左向きの反応 (逆反応)
の両方が同時に進行する反応



$$A \underset{k'}{\overset{k}{\rightleftharpoons}} B$$

15

可逆反応の微分速度式

$$A \underset{k'}{\overset{k}{\rightleftharpoons}} B \qquad v = k[A] \quad v = k'[B]$$

Aの濃度は順反応で減少するが、逆反応で増加する。したがって、ある段階での正味の変化速度は、

$$\frac{d[A]}{dt} = -k[A] + k'[B]$$

16

もし、Aの初濃度が、$[A]_0$でBが最初に存在していないなら、いつも$[A]+[B]=[A]_0$である。したがって、

$$\frac{d[A]}{dt} = -k[A] + k'[B]$$

$$\frac{d[A]}{dt} = -k[A] + k'([A]_0 - [A]) = -(k+k')[A] + k'[A]_0$$

$$\frac{d[A]}{-(k+k')[A] + k'[A]_0} = dt$$

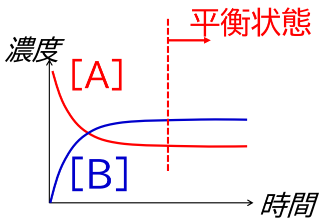
17

$$\frac{-(k+k')[A] + k'[A]_0}{-k[A]_0} = e^{-(k+k')t}$$

$$\boxed{[A] = \frac{k' + ke^{-(k+k')t}}{k+k'}[A]_0}$$

18

平衡状態に達した場合の濃度



$t \to \infty$ として求める

19

$t \to \infty$につれて、濃度は平衡値に近づく

$$[A] = \frac{k' + k\overset{0}{\boxed{e^{-(k+k')t}}}}{k + k'}[A]_0$$

$$[A]_{eq} = \frac{k'[A]_0}{k + k'} \qquad [B]_{eq} = [A]_0 - [A]_{eq} = \frac{k[A]_0}{k + k'}$$

$$\underline{K} = \frac{[B]_{eq}}{[A]_{eq}} = \frac{k}{k'}$$

平衡定数

20

ある二量化反応の順反応と逆反応の速度は8.0×10^{8} L mol^{-1} s^{-1}(二次)と2.0×10^{6} s^{-1}(一次)であった。この二量化反応の平衡乗数を求めよ。

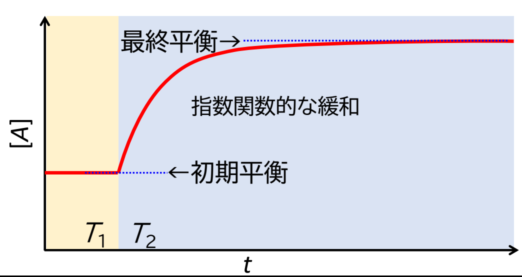
21

緩和： 系が平衡に戻ること。

外部からの影響で反応の平衡の位置がシフトし、その反応が新しい条件に合った平衡組成になっていく。

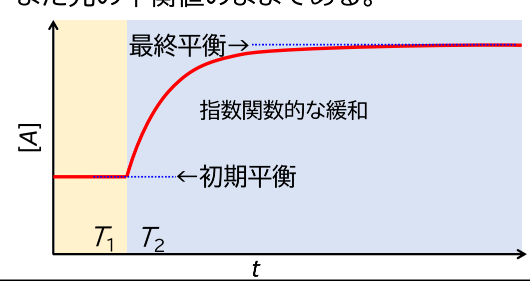
22

はじめ温度 T_1で平衡にあった反応が、急に温度が変化して T_2になったとき、新しい平衡に向かって緩和する。



23

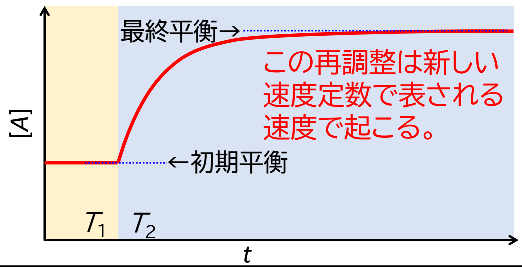
平衡にある系の温度を急に上げると、速度定数はもとの値から変化して、新しい温度でのkとk’ になるが、AとBの濃度はその瞬間には、まだ元の平衡値のままである。



24

系はもう平衡ではないから、新しい平衡濃度に向かって再調整が起こる。その濃度は、

$k[A]_{eq} = k'[B]_{eq}$　で与えられる。



25

新しい平衡値からの$[A]$のずれをxと書くと、$[A] = [A]_{eq} + x$ と $[B] = [B]_{eq} - x$ である。

そうすると、Aの濃度は次のように変化する。

$$\frac{d[A]}{dt} = -k[A] + k'[B]$$
$$= -k\left([A]_{eq} + x\right) + k'\left([B]_{eq} - x\right)$$
$$= -(k + k')x$$

平衡濃度を含む2項が打ち消しあう。

26

$$\frac{d[A]}{dt} = \frac{dx}{dt}$$　であるから、

$$\boxed{x = x_0 e^{-t/\tau} \qquad \tau = \frac{1}{k + k'}}$$

緩和時間

組成は新しい平衡組成に向かって、指数関数的に緩和する。

27